
平次の宿題騒動！？

平葉陽蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平次の宿題騒動！？

【Nコード】

N5735C

【作者名】

平葉陽蘭

【あらすじ】

平葉陽蘭初の短編小説、平次主役話。平次はもちろんのこと、和葉ちゃん、静華さんはちょっとだけ出てきます。平次は夏休み最後の日というのに、数学の宿題を全くやっていないことに気づき、やり始めますが・・・ここでは平次は英語が得意、数学は少し苦手という設定です。そうそう、初めてのオリキャラも少くし登場します。

(前書き)

平次&和葉なので関西弁のセリフとなります。
かなり関西弁が濃いかもしれません。

今日は8月26日、改方学園の夏休み最後の日。

夏休みの最後の日の過ごし方には2種類^{パターン}ある。

1つは宿題なんてとつくの昔に（又は計画的に進めて）終わらせて最後の日（又は数日間）は漫画を読んだり、TV^{テレビ}を見たりといったような自分の好きなことをして“優雅”に過ごす組^{グループ}、そしてもう1つは夏休みに遊びすぎて最後の日というのにシャーペンをカリカリ働かせている組^{グループ}、そしてここに後者でさつきからシャーペンをカリカリカリカリ働かせている改方学園の一人の生徒がいた。

午後2時頃・・・

「ああ、もう、オレとしたことが・・・。一番先に“やるべきやった”宿題をやってへんなんで。」

そう、後者でさつきからシャーペンをカリカリカリと必死に働かせている改方学園の生徒とは世間で“西の名探偵”と呼ばれ、新一^{コナン}とは“西の服部東の工藤”と並び称されている服部平次なのである。一つ、平次の名誉のために言っておこう。平次は数学以外の

宿題は終わらせている。

「でもなんでやる？数学の宿題はもろた時から最初にやるうと思っ
とったのに。それが全然やってへんなんて。やっぱ“数学は苦手や
”っていう意識があるからなんやるか……。量は多いし提出は明
日やし……。やらんと新野しんのにどんだけ怒られるか……。それに
オレは数学の成績がイマイチやから余計に……。そやから仕上げ
るしかないんや。それにしてもプリント5枚裏表はキツイわ。しか
もB4サイズで手作りプリント……。答えはなし。まあ、らしいと
言えばらしいんやけど……。せめてもの救いはそんなに“難しく
ない”ことやるか。しゃーない、頑張るか……。」

英語は得意で他教科だつて悪くても70点以上は取れるのだが、
数学は50〜60点台のことがほとんどなのである。

とここで少し平次も口にしていた“新野先生”について説明して
おこう。

新野先生は改方学園では“厳しい数学教師”で有名である。授業
はわかりやすくいいのだが、宿題忘れや居眠りにとても厳しいの
だ。平次も数度注意されたことがある。宿題はほぼ毎回のように出
る。普段の宿題はワークの問題なのだが、こういう時には手作り（
PC）なのである。そして答えはなし。休み明け最初の授業で宿題
をちゃんとやったかの大きかなチェックをし、模範解答を配る。そ
して答え合わせ（間違った所は赤で書き直して）をして後日に提出
もちろん期日は厳守である。もし遅れてしまったら、一応受け取っ
てはもらえるが減点される。（特別な事情の場合を除いて）だから
平次が必死になってやるのも当然だ。

平次は新野先生の厳しさを知っていた。だから最初にやるつもり

でいた。だけどなぜかやるのを忘れていた。それに気づいたのはついさつき、明日の準備のため、明日提出の宿題やその他の必要な物を用意していた時のことだった。

平次が“一から”数学の宿題をやり始めて1時間と少しが経過した頃……

「ああ、やっと1枚終わったわ。1枚でこんだけかかったら5枚やり終えるのにどんだけかかるんやろ？5枚全て同じペースってわけにもいかんやろし……。あんまり難しくないのはえーけど、“空欄禁止”やもんな……。」

そう、あんまり難しくはないけれど、空欄があつてはいけないのだ。

「誰か見せてくれへんかな……。それでも自分で写さなあかな。字が途中で変わってたらヤバイし。やっぱ自分の力でやらんと……。ん？なんや……。オレがやってる宿題をこれから邪魔されるような嫌な感じは……。まあええわ、宿題や宿題！」

平次がそう思った頃……。家のインターホンが鳴った。平次の母・静華がその人物を招き入れた。そして静華と少し話した後平次の部屋へと階段を上ってきた。その足音に平次も気づいたようだ。

「まさか……。そういえばさつきインターホン鳴ったな……。それにこの階段を上ってくる音……。」

やってきた人物の正体に気づいた平次は、やりかけの宿題を隠そうとしたが、それより先に部屋の扉が開かれてしまった。

「平次イ、国語の宿題のワークなんやけどわからんとこあるから教えてくれへん？えっ・・・まさか平次、数学まだ終わってへんかったん？あとどれだけあんの？」

和葉は見てしまった・・・まだやりかけの平次の宿題を。平次も“見られてしまったものは仕方がない”ということで正直に話すことにした。

「あと4枚やけど・・・悪いか？」

「ええ〜っ！！大丈夫なん、平次？新野先生の宿題やで？いつたい今まで平次何しとったん？」

ということとは和葉は数学の宿題は（いや、国語以外全て）終わっているのだろう・・・

「和葉こそ夏休み最後の日になんで“わからんとこ教えて〜”ってやってくんねん。もっと早はよ来いや。オレやって1時間くらい前に全然やってへんことに気づいたんやから。」

「平次と同じおんなや。アタシも今日で夏休みが最後や〜、チエツクしてたら空欄がまだあることに気づいてん。わからんトコとばしてやっとなんやけど、それで全部やった気になって・・・。答えはなし、提出明日やし、数学と一緒に“空欄がないように”やもん。」

「そうや、最初にやるつもりやったけどなぜか全然やってへんかったんや。和葉が来る前に1枚終わったんやけどな。まあしゃーない、オレに助けを求めてやってきたんやから教えたるわ。でもなんでオレの家に直接来たんや？女友達にでも聞いたら・・・。ああそうかオレの方が頼りになるんやな？そうやとしても電話でもいけたんとかやうか？」

確かにそうだ。電話で済まないことはない。

「え……。電話でやったら聞くだけやから間違うこともあるやろ？だから直接教えてもらおうと思ってる。(ほんまは平次に会って教えてほしかってる……)」

「確かに直接の方が間違いないもんな。」

平次は和葉にの説明に納得した。だが和葉がやってきた本当に理由はわかっていない。

「でも平次、そんなに残ってるのに大丈夫なん？」

「ああ、別に構わへんで。オレは夜でも大丈夫やけど和葉はそうもいかへんやろ？」

ということで平次は和葉がわからない部分を教え始めた。

約40分後……

「ありがとうな、平次。おかげで全部埋まったわ。」
「と言うと和葉はかばんから何かを取り出した。」

「はい、平次。これあげるわ。ほんまは一緒に食べようと思って持って来たんやけどな……。アタシはもう帰らなあかんから……。数学手伝われへんかってゴメンなこれでも食べて頑張ってるな。」

と言って平次にクツキーを渡した。

「ああ、ありがとう。」

そして和葉は帰っていった。再び平次は宿題をやり始めた。

すると・・・

「平次・・・平次・・・平次・・・」
どこからか平次を呼ぶ声がする。

次の瞬間

「平次イ、もうばんごはんやで・・・。」
平次は目が覚めた。そう、平次は夢を見ていたのだ。

「わかったあー、すぐ行くわ。」
返事をするに1階へ降りる前にある物をチェックした。

「ああ、よかった全部終わってるわ。そうや・・・2時くらいにやっと数学が終わって1時間くらいゴロゴロしてたらいつの間にか寝てしもたんや。残り1枚必死になってやってたからあんな夢見たんやるか・・・。」

そして平次は1階へと降りていった。

(後書き)

どうでしたか？平葉陽蘭初の短編、平次主役話は。

本当は昨日の夜に投稿したはずなのですが、今日学校から帰ってのぞくと投稿されていませんでした。

もう一度投稿しなおしてわかったのですが、私のミスでした。

改方学園の夏休みが26日で終わりだったのは、私の高校が26日までだったからです。

そうです、今日から学校始まったんです……。

この話、25日の夜に宿題をやっついていて（普段から定期的に出てるプリント）突発的に思いつきました。

どうせなら平次を主役にした話にしよう……（平次と同じ高2とというのもあると……）

ということでのこのような話になりました。

私は平次が大好きなのですが、まだ小説に平次を登場させた事がないありませんでした。

関西弁には自信あります。なんせ平次と同じ大阪住まいなんで……

「元氣のない哀へ……」はもうしばらくお待ちください。

そうそう、今次回作の構想を練ってるんですよ……。

実は結構前から考えてるんですが、なかなかまとまらないんです。

そこにも平次を“少しは”登場させるつもりです。

では「元氣のない哀へ……」第10話でお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5735c/>

平次の宿題騒動！？

2010年10月10日12時13分発行